

おごせ教育 Pick up

令和六年度 越生町の教育活動

越生町では、学校・家庭・地域が連携・協働した取組を一層推進させ、「知・徳・体」のバランスのとれた9年間の一貫性のある教育を行い、「生きる力」を育成することを目標としています。令和六年度、重点を置いて主に取り組むことを紹介します。

1 確かな学力の育成(知)

越生町では、越生町ならではの特色を生かし、『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業を推進していきます。

(1)ICTを活用した授業展開
児童生徒が自分の課題に合わせて

2 豊かな心の育成(徳)

特別の教科道徳を中心に据え、全ての教育活動を通じて、道徳教育・人権教育を展開していきます。

(1)さわやか相談室・教育支援センター(適応指導教室)の充実

3 健やかな体の育成(体)

越生町では、全ての活動の源となる「体力」の向上に向けた取り組みを推進していきます。

(1)学校体育活動の推進
町の体力向上推進委員会を中心に、学校の教育活動全体を通じた体系的な学校体育活動の充実を図

また、学校運営協議会(「コミュニティスクール」)を充実させ、学校・家庭・地域が一体となった様々な取り組みを実践していきます。

「子育てと教育のまち 越生」を目指して、令和六年度もご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

学習できるドリル等、ICT機器を効果的に活用した多様な授業を展開していきます。また、児童生徒の学びが保障されるよう、オンラインでの授業が行える準備を進めていきます。

(2)外国語教育の更なる充実
英検等、具体的な目標をもって意欲的に学習に取り組めるよう受験料の助成を行います。また、ALT(外国人英語助手)を各校に常駐配置したり、オンラインで海外の学校と交流をしたりして、更なる外国語教育の充実を図ります。

(3)少人数学級編制の継続
越生町では、町費負担の教員を配置し、独自の少人数学級編制を行っております。ティームティーチングや少人数指導による、個に応じたきめ細やかな指導を行っています。

義務教育9年間を見通した継続的な生徒指導を実践し、不登校、いじめ等の問題を未然防止・早期発見するために、さわやか相談員やスクールカウンセラー等の専門性の高い人材を活用し、教育相談体制を整えます。

(2)体験活動の充実
越生町ならではの様々な分野の知識・能力をもった人材や、山林等の豊富な地域資源を活用した特色ある体験活動に取り組み、郷土を愛する心や創造力を醸成します。

(3)情報モラル教室の充実
発達段階に応じた情報モラル教室を通して、学校・家庭・関係機関が連携を図り、児童生徒が適切にインターネット利用ができる力を育む教育を推進していきます。

り、小中連携した授業改善等を通して、体力向上を図っていきます。

(2)生活習慣の充実
「家庭生活・家庭学習のすすめ」リーフレットを活用し、学校・家庭が連携し、運動・食事・睡眠などの規則正しい生活習慣や、健康の保持増進を目指していきます。

(3)食育の充実
自校給食の特徴を生かし、地場産食材の使用を進め、学校給食を「生きた教材」とし、「食」に対する理解や、地域への関心を高めていきます。

この他にも、越生小学校と梅園小学校との合同行事や合同授業の取組を行い、お互いのよさを生かした小中連携を一層推進し、小中学校9年間の一貫した教育を推進していきます。

越生浪漫 No.182

石川勝利コレクションより

別相穿未探玄/公儀與論知何用/千秋誰慰大冤魂/青淵録旧作。 ※渋沢栄一(1840-1931)は榛沢郡血洗島村(現深谷市)出身の実業家。雅号は青淵。黒山で自害した振武軍兵士・渋沢平九郎の従兄弟で養父。

②書画(大野嘉太郎筆)
〈本紙〉縦132cm、横50cm。【印章】「春風影裏/斬電光」、「鐵人」、「大野/之印」、「山岡/遺門」。〈銘文〉靈場乃名磐高山乃峰續き樹々磐茂り天ノ黒山響くや瀧乃靈水と佛の誓いと深可き/龍穩禪寺乃浄水登併せ流る、越邊川岩乃砕け天ノ玉と散り杭にせ可れ天瀬と変り恐懼悲哀

①七言絶句(渋沢栄一筆)
〈本紙〉縦134cm、横33cm。【印章】「晚香/書屋」、「澁沢/栄一」、「青淵/釣夫」。〈銘文〉維新偉績覓無痕/扶

③越生美談 山吹の里
〈寸法〉縦23cm、横10.5cm。〈概要〉昭和9年(1934)発行。太田道灌の山吹伝説をモチーフにした説話「真蹟 山吹乃里」(大野鐵人作詞、若松國若太夫作曲)を書籍化したもの。

※大野嘉太郎(1871-1964)は秩父郡北川村(現飯能市)出身。初代若松國若太夫に就き、鐵人(鉄人)、若松國若太夫と名乗って「飯能の嵐 渋沢平九郎自刃の段」な

④山水画(松野自得筆)
〈本紙〉縦128cm、横30.5cm。【印章】「自得」。〈銘文〉夏雲多奇峰/自得山人。

⑤山水画
〈本紙〉縦135cm、横23.7cm。【印章】「人生至樂」、「自得」。〈銘文〉雲開見山高/木藤風村動/亭下不通人/夕陽淡秋影/自得散人。 ※松野自得(1890-1975)は群馬県邑楽郡館林町(現館林市)出身の僧侶、書家、俳人。黒山の

⑥花鳥図(児玉碧洋筆)
〈本紙〉縦133cm、横52.5cm。【印章】「児玉/□□」、「碧洋」。 ※児玉碧洋については現在調査中。昭和43年発行・奥富由雄著『郷土百年』によれば、碧洋は越生の人ではなく、大正中頃から昭和10年頃まで西和田の興禅寺に住み、のちに齋雲と名乗った。当時、碧洋の画は「町中に随分見へる」と書かれている。



①七言絶句(渋沢栄一筆) ②書画(大野嘉太郎筆)



③『越生美談 山吹の里』(大野嘉太郎作)



④、⑤山水画(松野自得筆)



⑥花鳥図(児玉碧洋筆)